

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 全力！ ICHIOKA**～全日制普通科（単位制）単位制による進路実現への取組み 100%、伝統の自主活動への取組み 100%による中核人材の育成～
- 多様性を理解し、主体的に判断し、協働できる力をもった生徒を育てる。
 - 1 少人数授業を特色とする全日制普通科（単位制）と進学講習で、一段高いレベルで希望の進路を実現
 - 2 伝統の部活動と主体的な学習の両立を通じて自分で判断する力、自分で考えて行動する力のある生徒を育てる
 - 3 学校行事と自主活動を通じて、創造する力と心の豊かさを育む

2 中期的目標

- 1 少人数授業を特色とする全日制普通科（単位制）と進学講習で、一段高いレベルで希望の進路を実現
 - (1) 生徒が安心して国公立大学をめざすことを選択できる環境を実現する。
 - ア 授業と、講習・個人指導・面談・懇談等とのバランスのとれた教育課程のマネジメントのもとに、すべての生徒の第一志望の進路を実現する。
 - イ 進学講習、勉強合宿、英語の資格試験等を計画的に実施し、第一志望の進路を実現する。
 - ウ 1・2年次において職業ガイダンスや履修ガイダンスを行うとともに、生徒が自己理解を深め自分自身の進路に展望をもち、次年度の適切な履修決定を行えるよう支援する。
 - エ 進路ガイダンス室の機能を高め、一人ひとりの生徒の進路決定、第一志望の進路の実現の支援を行う。
 - オ 3年次においては、模擬テスト等のデータを活用した進路検討会を行い、一人ひとりの生徒の状況に合った進路決定を支援する。
 - カ 全日制単位制が一段高いレベルで希望の進路を実現できる特色ある課程であることを発信し、中学生の進路選択に資する。
2021年度に、国公立大学及び難関私立大学の現役入学者数の割合を卒業生数比で40%にすることを目標とする。
 - (2) 知識・技能の定着を図るとともに、思考力、判断力、表現力を育む授業を行う。
 - ア 思考力・判断力・表現力を育むことをテーマとした公開授業及び授業研究の機会を設け、教員の授業力を高めるとともに、学校全体の授業力を高める。
 - イ 進路指導や学力向上の特色ある取組みや先進的な取組みを行っている学校の情報を収集し、その取組みを報告研修で共有し、実情にあわせて学校経営に反映する。
2021年度に、授業アンケートの有益感の指標を3.2にすることを目標とする。
 - (3) 安全で安心な学校づくり
 - ア 学年初めの早い時期に全生徒の面談を行い、担任・学年団として生徒状況の共通理解を形成し、適切な支援と不登校の未然防止を図る。
 - イ 学年会、職員会議で、生徒情報の共有と共通理解の形成を図るとともに個別の支援計画を作成し、学校全体で一人ひとりの生徒への適切な支援を行う。
 - ウ 生徒の欠席遅刻状況を「見える化」できるシステム・仕組みを整備し、不登校など支援の必要な生徒への迅速で適切な初期対応を行う。
2021年度に、遅刻、欠席、不登校の対在籍生徒比率を、平成29年度比で25%減とする。
- 2 自主活動及び伝統の部活動と、学習の主体的な両立を通じて自分で判断する力、自分で考えて行動する力のある生徒を育てる
 - (1) 部活動と主体的な学習が両立できる環境の整備
 - ア 安全・自主的自律的・円滑に部活動が運営されるよう適切な活動時間の設定や指導者の確保などの環境整備と支援に取り組むとともに、授業外の学習時間の確保と自学自習の習慣の確立を図り、部活動と学習の両立を実現する。
 - イ 部活動を通じて高い目標を掲げ、諦めず力を尽くす姿勢を獲得し、第一志望の進路の実現につなげる。
 - (2) 部活動を通じて自分で判断する力、自分で考えて行動する力のある生徒を育てる。
 - ア 部活動を通じて、100%の力を発揮できる心身の育成を図る。
 - イ 部活動において、中学生との交流や地域の行事への参加をすすめ、地域に愛される学校づくりと部員の自己肯定感の育成をすすめる。
 - ウ 市岡高校の部活動で育成される力及び生徒が自主的自律的に運営を行っている市岡高校の部活動の魅力中学生に向けて発信する。
2021年度に、部活加入率90%にすることを目標とする。
- 3 創造する力、心の豊かさを育む学校行事
 - (1) 総合的な学習の時間の充実
 - ア ユネスコスクールとしての国際、地域、防災、人権の学習を通じて多様性を理解し、協働し自主的・自律的に物事に取り組む力を育成する。
 - イ これまでの総合的な学習の時間の取組みをまとめて学校としてのアーカイブを作成し、総合的な学習の時間の学びを、より効果的に行える仕組みを確立する。
 - (2) 学校行事、特別活動等における生徒の育成。
 - ア 体育祭、文化祭、合唱コンクール等を通して、組織において自主的・自律的に協働できる生徒を育てる。
 - イ 文楽・落語・能狂言などの古典芸能鑑賞、クラシック音楽鑑賞等の特色ある行事を通して、芸術・芸能に関する理解と豊かな感性を養う。
 - ウ オーストラリア語学研修やコミュニケーションツールとしての英語の運用能力を高める機会や大学等が実施するコンテストなどへの参加・出品を推奨し、多様性の理解の深化、表現力・コミュニケーション能力及び生徒の達成感や自己肯定感の育成を図る。
 - エ 各教科における校外の機関や団体との連携を強化し、生徒に有益な活動を推進していく。
 - オ 日本の産業の最先端や、持続可能な開発や発展など、ユネスコスクールにおける多様性の理解の一端として、修学旅行を実施する。
2021年度に、学校行事、自主活動に関する肯定的評価を90%にすることを目標とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>学校教育自己診断の生徒の肯定的回答率、()内は前年実績</p> <p>全21項目平均が4.5%改善した 80.2% (75.7%)</p> <p>3%以上、上下動した項目</p> <p>進路実現のため学習によく取り組んだ 74.7% (69.3%)</p> <p>学習と部活や体育祭等の自主活動によく取り組んだ 82.4% (73.6%)</p> <p>担任の先生以外にも相談できる先生がいる 66.0% (57.4%)</p> <p>命を大切にし違いを認め合い共に成長できる学校だ 81.7% (76.7%)</p> <p>社会のルールを学び、社会の規律が身についた 88.6% (83.9%)</p> <p>総合的な学習(国際・人権・防災)が充実している 89.8% (85.2%)</p> <p>進路指導やガイダンスが充実している 86.8% (83.4%)</p> <p>地域交流やボランティア活動に参加する機会がある 43.5% (32.1%)</p> <p>先生は生徒のために授業やその他の仕事をしている 82.7% (79.4%)</p> <p>校長先生の話は簡潔で分かりやすい 84.6% (55.2%)</p> <p>全ての項目が改善し、生徒全体に意識変容が認められる。</p>	<p>第1回(6月14日)</p> <ul style="list-style-type: none"> HPやメールマガジンがリニューアルされたが、しっかりとメンテナンスし最新情報を確実に提供し続けてほしい 私立大学の定員管理の厳格化、新入試対策等の新事象に振り回されず、学習の本質を外すことなく王道を行ってほしい <p>第2回(11月1日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 後期から学校重点課題とした「校内の美化清掃」は、学校経営の大切な基礎基本なので今後もぜひ継続してほしい。 校内映像放送システムの運用に期待している。 <p>第3回(2月14日)</p> <ul style="list-style-type: none"> 新入試制度に関わる諸問題に対し混乱することなく、英語4技能や読解力をつける施策をしっかりと進めてほしい。 自主参加の自学自習合宿の効果をより多くの生徒に広げていくよう働きかけてはどうか 多忙な生徒が参加しやすい地域活動やボランティア活動への取組みを工夫してほしい

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 少人数授業を特色とする全日制普通科(単位制)と進学講習で、一段高いレベルで希望の進路を実現	<p>(1) 生徒が安心して国公立大学をめざすことを選択できる環境を実現する。</p> <p>(2) 知識・技能の定着を図るとともに、思考力、判断力、表現力をはぐくむ授業を行う。</p> <p>(3) 安全で安心な学校づくり</p>	<p>(1)</p> <p>ア 進学講習、勉強合宿等を計画的に実施し、第一志望の進路を実現する。</p> <p>イ 授業において、知識・技能の着実な定着と深い学びによる思考力の養成を図る。</p> <p>エ 学級文庫の充実を図り、朝の読書を通じて、思考力の基盤となる広い教養、読解力を要請する。</p> <p>(3)</p> <p>ア 学年、保健室、教育相談、生徒指導担当者の情報共有の機会を設けるとともに個別の支援計画の作成により、組織的な情報共有を図り、適切な生徒への関わりと支援を行う。</p> <p>イ 遅刻指導の方針をより明確にするとともに、遅刻と欠席のない自律的な生活生徒の育成を図る。</p> <p>(4) 行事計画プロジェクトチームを設置しカリキュラムマネジメントを進めるなかで、超過勤務の縮減を図り、教職員がゆとりを持って生徒と向き合える環境を整備する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 進学講習の実施体制を整備し3年間を見通した計画を6月末を目途に策定する。</p> <p>イ 入学時の生徒の学力と過去5年の実績を考慮し、下記の人数を目標とする。 <現役入学者> 国公立大学 30名 難関私立大学 60名</p> <p>(2)</p> <p>ア 英語を「話す力」の習得への意識の向上に関するアンケート項目の肯定的回答60%を目標とする。</p> <p>イ 年々向上してきた生徒授業アンケートの「授業分析」の項目の前年度評価(3.18)の維持。</p> <p>エ 朝読関連の意識調査の肯定感の「知識の幅が広がった」(3年次生の過去2年の平均:29%)「勉強に役立った」(15%)の向上。</p> <p>(3)</p> <p>ア 不登校(年間30日以上欠席)の前年度比10%減を目標とする。</p> <p>イ 前年度減少した遅刻を、さらに前年比10%減することを目標とする。</p> <p>(4) 3過去3年間で約8時間縮減した超過勤務時間を維持・改善する。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 進路指導部により3年計画を策定し6月にHP上に公開した。()</p> <p>イ 国公立大学 25名() 難関私立大学 42名()</p> <p>(2)</p> <p>ア 肯定的回答率74.5%() 特にGTECに対する前向きな感想が多く、来年度に向け期待が持てる。</p> <p>イ 授業分析 3.29(対前年+0.11)() 授業品質は全体として改善が認められる。</p> <p>エ 「知識の幅が広がった」31%() 「勉強に役立った」16%() 73期生読書案内書が市内3図書館で企画展示。地域のケーブルテレビで番組紹介された。</p> <p>(3)</p> <p>ア 不登校 16名(51%減)() 教員の細やかな指導により、年間30日以上欠席者が半減した。</p> <p>イ 遅刻 16.9名(8%減)() 教員の地道な登校指導により改善した。</p> <p>(4) 時間外勤務 32.8h/月(対前年+4h)() 教員の業務量に大きな変化はないが、業務合理化への過程での一時的な動きであると思われる。</p>
2 自主活動を通じた伝統のある部活動と、学習の主体的な両立できる環境の整備	<p>(1) 部活動と主体的な学習が両立できる環境の整備</p>	<p>(1)</p> <p>ア 生徒が自主的・自律的に部活動を運営できるよう顧問が支援を行うとともに、ノークラブデーの着実な実施など、授業外の学習時間の確保と自学自習の習慣の確立に学校として取り組む。</p> <p>イ 部活動と学習活動が両立できる環境及び部員の人数により差がつくことのない活動環境を実現し、加入率90%を目標に部活動を一層活発にする。</p> <p>ウ 学習習慣の確立のために学校行事として自学自習合宿を実施し、生徒の自学自習の習慣の確立の支援及び学習活動の核となる集団の育成を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア ・1年生9月の授業外学習時間の前年比増加を目標とする。(H30年度55分)</p> <p>・2年生9月の授業外学習時間の前年(1年の時)からの増加を目標とする。</p> <p>3年生9月から12月の授業外学習時間の前年度比増を目標とする。(H30年9月から12月4時間40分)</p> <p>イ 加入率(H30年度85%)の維持。</p> <p>ウ 自学自習合宿の実施。参加生徒の有効感90%を目標とする。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 1年生 87分(55分) 2年生 108分(95分) 3年生 330分(280分) () 担任・進路部一体となった継続的な進路指導を続けたことにより一定の改善が認められる。</p> <p>イ 加入率 82.5%()数字はやや落ちたが誤差の範囲と考える。</p> <p>ウ 有効感 100% ()参加生徒は一日中勉強漬けとなり全員高い達成感を持った。</p>

府立市岡高等学校

<p>3 創造する力、 心豊かな心を育</p>	<p>(1) 総合的な学習の時間の充実</p> <p>(2) 学校行事、特別活動等における生徒の育成</p>	<p>(1) ア 総合的な探究の時間について、生徒の成長が顕著にみられた取組み及び新たな取組みについて職員会議で報告研修を行い、成果の共有を通じて学校として質の向上を図る。</p> <p>(2) ア 体育祭、文化祭、合唱大会を通じて、協働する楽しさを感じさせ、協働する力を育成する。</p>	<p>(1) ア 生徒アンケートによる効果の検証 ・記述回答による生徒の成長、実感、肯定感の把握。 ・肯定的な回答(90%)を目標とする。</p> <p>(2) ア 学校教育自己診断の体育祭等に関する項目の肯定的評価90%の維持を目標とする。</p>	<p>(1) ア 肯定的な回答 89.8% (前年+4%) () ・特に国際、人権、防災、地域についてのテーマで学ぶ機会を 92.9%の生徒が実感している。</p> <p>(2) ア 肯定的評価 91.9% () 文武両道の市岡精神への満足度が高い</p>
---------------------------------	--	---	---	--